

2 レベルゲームと交渉代表者決定の影響

同志社大学経済学部

米崎克彦

本稿では、国際政治経済学の分野で発展した 2 レベルゲームモデルに交渉代表者を選ぶ過程を追加することにより、国内の意思決定が、交渉代表者に影響を与えるモデルを考察した。先行研究において、2 レベルゲームは様々な形で拡張や応用が研究されている。

理論面では Putnam の 2 つの仮説に対し様々な形で検証が行われている。本モデルでは、Putnam-Iida-Tarar の結果に対し、両仮説についてこれまでと違う含意が得られた。第 1 仮説について、複数均衡が存在する条件が導かれ、より交渉が成立するケースが増えるという可能性の点から、この仮説を支持する可能性が導かれた。また、第 2 仮説について、交渉のアドバンテージはウインセットの大きさではなく誰を選ぶかという部分に変化している。ただし、ウインセットの変化が均衡の集合のサイズに影響を与え、自分らのとり分が相対的に少なくなる可能性のある均衡の集合範囲がなくなる場合があり、間接的に交渉力に影響を与える可能性は残されている。